

平成27年2月16日

熊本日日新聞朝刊

TACやつしろの従業員ら。若い農業者の姿も目立つ。前列左から2人目が野田代表理事
=八代市



TAC(タック)やつしろ=八代市

農業法人物語

9

【事業内容】 野菜の生産・販売
 【生産規模】 レタス55畝、水稲13畝、トマト85畝、メロン40畝など
 【法人設立】 2002年7月
 【従業員】 役員4人、従業員27人
 【売上高】 2億9000万円

広々とした八代市の平野部でレタスを中心に業務用野菜を生産する。野菜は長野県の商社を通じて全国のスーパーやコンビニ、飲食店へ。全国に販売ネットワークを持つ商社との取引では、常に質と量の両面で安定した出荷が求められる。「依頼には確実に応えないと。私たちはものづくりのプロですから」と野田成之代表理事(60)。

業務用野菜を安定出荷

「ころ。2年後に仲間5人で法人を設立した。最初の数年は試行錯誤の連続。イ草を生産していた水田はレタス栽培に向かず、土壌改良や排水対策を施すことで徐々に収量を安定させた。販売先確保のため、野田代表が商社に熱心に働き掛けて取引を実現。農地も集まるようになり、6畝で始めたレタスの作付けは10倍近くになった。

ハウスを使って厳冬期にもレタスを生産することで他産地との違いを出している。3年前からは培地養液栽培による高糖度トマトの生産という新分野にも挑戦。「TACは『Try and Challenge』の意味。常に前に進まない」と野田代表。

法人は地域の雇用の場としても機能し、パートも含め30人超を雇う。07年には仕入れや販売を担う別法人も立ち上げた。現場作業が厳しい年齢になつたら、TACやつしろから別法人に移ることで、生涯働ける場を提供するためだ。従業員の中には若手も多く、次世代を担う人材の育成も法人の使命と位置づける。

業務用野菜の生産基地としての期待も高いという八代平野。野田代表は「地域一体で国内供給基地の地位を築いていくべきだ」と力を込めた。県農業法人協会員。11次回は3月23日掲載予定